

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第914号 平成27年4月14日

## 生き埋め

世の中では時々理解不能の事が起こるものですが、今回発生した事件もまた、首を捻るばかりです。

この事件というのは、3月6日千葉県の船橋市内にある県立高校で、農業関連の科目を教えている30代の男性教師が、生まれたばかりの子猫5匹を学校の敷地に生き埋めにしたというもので、この事が明るみになって以降、同校には抗議や苦情の電話が相次いでいるそうです、

生まれたばかりの子猫を、一体どういう料簡で生き埋めにしてしまったのでしょうか。

男性教師の説明によると、学校の敷地内の農業用ハウスで生まれたばかりの子猫5匹を発見したが、どう対処すれば良いか分からなかったという事のようにですが、もしもそれが真実なら、論評する気にもなりません。

男性教師は、子猫を発見した日の放課後に、受け持ちのクラスの男子生徒を手伝わせて穴を掘り、その後、その教師が自分1人で5匹を生き埋めにするところを生徒が見ていて、事件が発覚したというものです。

穴掘りを手伝った生徒はずっと泣いていたとの話もあり、今回の事件で精神的ショックを受けている生徒も少なくないと思われます。

今回の事件に対して、警察は動物愛護法違反の男性教師から事情を聴いているとの事です。

命の大切さを教えるべき学校で、子猫を生き埋めにするという事件が発生した事は、いい訳のできない事態だというしかありません。

しかも、不思議なのは、事件を起こした教師には、子猫を発見した際、管理職に一報を入れるとか、保健所に相談する位の知恵も湧かなかったという事です。仮に、「どうしたら良いか分からなかった」としても、如何にすれば「生きたまま埋めてしまう」という選択に至るのか、私には理解出来ませんし、埋めてしまえば問題はなかった事になり、解決するという感覚は、どこかゲームのリセットボタンを押す感覚に似て、恐怖すら感じます。

私が特に解せないのは、子猫を生き埋めにする作業にどうして生徒を巻き込んだのだろうという事です。一体この男性教師は、何の目的で生徒に穴掘りを手伝わせ

たのでしょうか。自分1人での作業は大変だからというのでは、余りにも軽率であり、そこには教育的配慮の欠片も感じられません。

結局、何をいっても、男性教師の方は「対応の仕方が分からなかったから」というのでは、度し難い事です。

私は、教師を目指している若い方々には「教師である前に良き社会人であれ」と申し上げています。それは、どんなに頭和良くて、教科指導は出来たとしても、社会人として相応しい行動が取れないというのであれば、そういう人は教師には向いていないと思うからですが、特に「命への愛おしさ」について共感力を持ってないような人は、教師を目指すべきではありません。

(塾頭：吉田 洋一)